**平成28年度　各事業報告**

**≪自主事業≫**

**家族の絆レストラン**

公益財団法人キリン福祉財団の助成を得て、年2回実施。

場所：イタリアンレストランCOHAL

【参加者数実績】

第1回：6月19日（日） 参加者：10組　37名

第2回：12月11日（日）参加者：7組　26名

＊参加者延べ55組　198名

参加者には毎回アンケートを実施しており、期待以上の満足を感じてもらえていることがわかる。自由筆記のアンケート感想欄は記入量も多く、今後への提案（こうしてほしい）も多数挙がることからも、満足度の高さが伺える。

ほぼ毎回「託児中、父親が手持ち無沙汰に思えて（残念）」という声がアンケートに挙がる。「子育てに積極的に参加するパパであってほしい」というママ達の願いとも受け取れる。スタッフは相互託児において、常に主役は親たちでありスタッフは脇役、という意識をもってあたっており、引き続きこの意識を大事にしつつ、父親へ遊びの促しや子どもと関るヒントを一層提示できるよう努めたい。

参加募集において、昨年度の課題から、当日キャンセルを防ぐべく、段階的にキャンセル料を設定した。現在までに特にトラブルは生じていない。

また、6月の際は、新規利用者に優先的に参加してもらうため、2回目以降参加希望者はサポート会員になることを条件とした。このとき、2組がサポート会員になってくれている。しかし12月実施までの期間にスタッフ間で話し合い、「条件のようにサポート会員になるのはどうか」ことから、この仕組みは中止した。

12月において、レストラン会場のCOHALとの連絡不足から、朝レストランスタッフが未着という事態があった。幸いその後すぐに到着し事なきを得ているが、今後は慣れた場所とはいえ、やはり一度は事前打合せをしっかり持ちたい。

**出張親子ひろば「あおぞら広場」**(全3会場 計6回　合計人数436人)

　【実施状況】

・柳原公園6/15、10/5、3/1　　 参加者合計80人　（子ども40人、大人40人）

・大杉公園4/20、6/1、10/19　　参加者合計162人 （子ども71人、大人91人）

　・志賀公園5/18、11/16、3/15　 参加者合計194人 （子ども97人、大人97人）

　　雨天中止なし

　【活動報告】

上飯田児童館、民生子ども課の保育案内人、土木事務所、学区民生委員、児童委員の方たちと協働して事業を行った。これにより、地域のママたちにとっては、その地域に根ざした専門機関がある、という安心につながるのではないかと感じている。年度末には、あおぞら広場の関係機関が集まり、あおぞら広場振り返りの会を実施。次年度へ向けての改善点などを話しあった。

まめっこ単独での開催も、今年度より実施。民生委員と児童委員の方たちやまめっこサポーターの協力もあり、無事開催する事ができた。

　屋外の実施という事で、風が強い日も多くあり、月齢が低い子が寝転んで遊べるように用意したブルーシートがめくれることがあった。その為、水を入れたペットボトルを重石としてブルーシートに置いて対応した。それでも動いてしまう事もあるので、今後も対策を考える必要がある。また、夏頃は蚊が多く発生するので、こちらも引き続き対策を考えていきたい。

　参加者からは、「砂遊びをみんなでやると、汚れても気にならないから気が楽です」や「初めて公園へ子どもを連れて来ました」などの声が聞けた。転勤で引っ越して来た母は、友達を作るきっかけを増やしていきたいとの思いで、参加してくれていた。

　【次年度の実施計画及び課題】

　次年度は、全3会場　計8回を計画している。内、2回まめっこ単独開催。

**北区子育て支援ルーム（わかば）**

毎週金曜日、10：00～11：30（前半自由遊び、後半絵本の読み聞かせや手遊びなど）

北区内4ヵ所ある支援ルームのうちの1つ。昨年度実績：36回開催　参加組数1006組。

自由参加の、親や子ども同士の交流の場所。子育てに関する相談、助言、育児情報の提供を行っている。

保育園や学区間の主任児童員が主に運営を行っており、まめっこはお手伝いとして参加。遊モアや各イベントを紹介するほか、親子に寄り添って様々な悩みを聞き、助言、親同士や外部へ繋げるサポートをしている。

支援者は地域の職員などと連携が深まり、情報の共有化や活動内容の相互理解などスキルアップに繋がる効果が得られる。

昨年度2月に行われた子育て支援ルーム運営協議会では、これまでの振り返りや当日の役割分担について、新年度のスケジュールなどを確認した。

**モアファミ　親と子の教室**　2016-17コース（全4回）

1. 7月3日（日）「私と子育て」＋遊びファシリテーターとドキドキ体験遊び

　　親子2組（大人3名　子ども2名）

　・日常生活の中の身近なもの「くつした」での遊びはとても新鮮で、沢山の驚きや気づきがあった

・一日の時間の過ごし方を振り返ることで、客観的に自分を見る機会を得られたようだ

1. 9月19日（日）「子どものイヤイヤ、どうしてる？」＋新聞ビリビリあそび

親子4組（大人5名　子ども4名）

　・新聞プールでは、頭から新聞をかけられるとはしゃいで盛り上がった

　・子どもの様子や、自分の子どもの頃について話し合った

1. 10月2日（日）「親子で遊ぶって・・・？」＋親子で外遊び

親子4組（大人5名　子ども4名）

　・いろいろな形のシャボン玉を作り、追いかけて走り回ったり、飛んでいく姿を目で追ったりした

　・親に子どもの頃の遊びの話をしてもらい、乳幼児期から幼児期における生活の中の遊びや体験の積み重ねの大切さを伝える

1. 3月20日（月・祝）「家族との距離、どう取る？」＋簡単クッキングで遊ぶ

親子5組（大人6名　子ども6名）

　・夫婦間でも、親子と同じように一歩ひいて相手をみることで、距離を保つこともできる

　・白玉団子のおやつ作りでは、親子で夢中になり落ち着いて取り組めた

親も子も思いっきり「遊び」、ママ・パパの気持ちを「話す」ことから子育てのヒント・発見がたくさんあり、また相互子育て「体験」から自分の子育てを見つめ直すきっかけづくりの場として、モアファミの講座が開催されている。

今後は参加者の「もっと話す時間が欲しかった」「他の父親の意見も聞きたかった」などの声も反映して、遊モア利用者と、あおぞら広場やわかばなど広場以外の利用者へも広く広報をすることをしていきたい。

2017年度は７月、9月、3月の3回開催予定。

**まめっこサポーター**

子育て中の保護者が中心となって、まめっこスタッフと共に、子育て中の親や地域の人が外に出るきっかけづくりや、地域の人を巻き込む街づくりを目的に活動。

10月に地域子育て支援拠点になったことに伴って、活動を中止。その後は、まめっこボランティアとして、引き続き活動の継続を促した。

【ボランティア会議】

各イベントの企画を話しあう為、まめっこサポーター、まめっこスタッフと共に会議を行った。近況報告も話し合い、お互いの状況を知る会議でもあった。

【講座４回】

5/23「アロマ虫よけスプレー作り」、7/7「七夕童謡コンサート」、11/7「歯のおはなし」、

12/2「クリスマスコンサート」

まめっこサポーターが、特技を活かして自ら講師や演奏者となって開催。会計は、まめっこサポーター同士で話し合い進めていった。参加者が多く、遊モアを知ってもらうきっかけにもなった。

【あおぞら広場】

あおぞら広場に参加し、スタッフと一緒に、公園へ来た親子への声掛けや手遊び・絵本の読み聞かせを行った。

**まめっこボランティア**

10月から地域子育て支援拠点になったことに伴って、ボランティア募集を、今までは主に子育て中の保護者を対象にしていたが、学生から地域の人と広い範囲とした。

ボランティア団体の名称を変更、「まめっこサポーター」から「まめっこボランティア」とした。

現在の登録者数は11名（学生2名、元まめっこサポーター8名、遊モア利用者1名）。

ボランティアへは、毎月メーリングリストであおぞら広場開催や遊モアイベントの連絡をしている。

主な活動内容は、遊モア広場やあおぞら広場での親子へ声掛けやスタッフの補助。

あおぞら広場は、ボランティアの負担にならないように事前連絡を必要としていないが、公園へ来て、絵本の読み聞かせや準備片づけ等を行ってくれている。

今後、あおぞら広場のまめっこ単独開催実施を増やすためにも、まめっこボランティアの存在が大きいと感じている。

**≪受託事業≫**

**0,1,2,3才とおとなの広場　遊モア**

＊月20日程度実施　4月～9月　名古屋市つどいの広場助成金事業

　　　　　　　　　　　　　　　利用者数　801名　新規登録者数　41名

　　　　　　　　　10月～3月　名古屋市地域子育て支援拠点事業

　　　　　　　　　　　　　　　利用者数　2607名　新規登録者数　214名

親子で安心して遊べる場所を提供している。母親たちがおしゃべりをしたり、公園・スーパー・病院などの情報交換の場となっている。子どもたちにとっては仲良く遊んだり、時にはぶつかったりしながらも良い刺激の場になっている。転勤や引っ越ししてきた方にとっては幼稚園や近郊の遊び場など生活に密着した情報を得られる場として喜ばれている。

スタッフは、利用者がリラックスできる雰囲気と母同士がつながり、子ども同士が安心できる場づくりを心掛けている。そして、母親と一緒に子どもたちを見守る場になるよう努めている。

平成28年10月からは遊モアが名古屋市地域子育て支援拠点になり、登録料・利用料が無料になった。利用者人数は今までの平均と比較し3倍以上になった。

1日の利用者数は約10組20人くらいである。イベント時には一時的にではあるが、20組40人ほど来室していることもある。イベント時など、常駐スタッフ2名では厳しいと思われる場合は他にスタッフ1名を加配して対応している。

拠点になってからは子どもの生活スタイルにあわせた午前のみ、午後のみ、毎日決まった時間の利用など親子の生活リズムに合わせた利用が増えた。

リピーターの方が多いため、母にとっても遊モアがリラックスできる場になりつつあり、母同士が積極的に会話に参加し、とてもよい環境になっている。

利用者の方の声として、「遊モアに来ることが生活に一部になり、生活リズムに役立っている」「うちで子どもと2人で過ごすのはつらいので遊モアがあって助かる」という話を母たちから聞くことが多くなった。

**名古屋市子ども・子育て支援センター（758キッズステーション）**

キッズパーク

開設日数　344日　　　利用者数　43,157人

28年度はまめっこから、顧問として1名、コンシェルジュとして2名、またコンソ会議へ新たに1名が関わり、まめっこの存在感がアップした。

キッズステーションの利用者には、転入したばかりで地域の情報を求めている人があり、遊モアの利用者は名古屋市の子育て支援情報を求めている人がある。スタッフは双方の情報を持つことで、それぞれの要望に合った案内が提供できるようになった。キッズパーク利用者は、およそ125人／日。今夏は200人／日を越える日が前年の倍以上あった。現在のキッズパークが利用者によく受け入れられていると感じる。

7月にイクボスフォーラムを開催。ファザーリングジャパンの川島高之氏を招いた講演は、ワークライフバランスを地で行く氏と会社の様々な取り組みを紹介。ワークライフバランスの充実が、会社の実績を上げることに、参加者は新鮮な驚きを得た様子だった。

また、コンソーシアム3団体での学習会を実施。3団体それぞれの特色をお互いに講義しあい、改めてお互いを知るよい機会となった。また、傾聴などすぐに現場に役立つスキルを得られる講座もあり、祝日開催にも関らず、まめっこスタッフも多くが参加した。

さらに、29年度地域子育て支援拠点開設へ向け、様々な準備を重ねてきた。特にコンシェルジュとしては、他県の地域子育て支援拠点見学や、定期的なコンシェルジュ会議での情報共有、助産師会のスーパーヴィジョンからは専門家の助言をあおいだ。キッズパーク内では親同士をつなぐツールとして子どもの名札を実施し、好評を得ている。10月新設の名古屋市地域子育て支援拠点（14ヵ所）をつなぐべく、パネル作成会を2月に開催。拠点スタッフ同士が情報交換でき、こちらも好評だった。こうした各拠点への声がけには、まめっこが持つ、さまざまなひろばへのつながりが大いに役立った。現在、これらの拠点を結ぶ情報共有の場としてメーリングリストを立ち上げている。まめっこは、メーリングリストでも先導的な立場を期待されている。

**上飯田児童館　わくわく遊び隊**

※定員15組、年18回実施。1000円／半期の申込み制。前期9回と後期9回に分けて実施。

1歳～未就園児を対象に、子どもは遊びの中で人と関わることを経験し、大人は子どもと向き合いながら、親同士の交流につながるような場を提供している。

親子でふれあう遊びでは、子どもの「大好き」と母にギュッと抱かれた時の、とてもうれしそうな表情が印象的だった。4月にはさくらに見立てた紙吹雪を、全員でうちわであおいで舞わせるなど、季節に合わせた遊びを集団で行い、集団遊びの楽しさを知ってもらった。

親が楽しいと子どももその姿をみて興味をもち、参加するようになる事を伝え、親たちへ参加を促した。その結果、始めの頃は遊びに参加しなかった子どもも、回を重ねる毎に参加に加わる姿がみられた。そして、その親も子どもが参加するようになると、笑顔がみられるようになった。

親同士の交流を深めるために、参加者同士で質疑応答する時間を作った。その時、子どもがあきないように、遊びの流れの中で質問の時間を作るなど工夫した。

終了時には「子どもの成長がみられてうれしい」や「また参加したい」との声もあった。

次年度も、前期と後期の9回に分けて、全18回の実施予定である。

**孫育て学校　（愛知県）**

\*11/5児童総合センター　　\*12/4愛知こどもの国　　\*12/23海南こどもの国

参加人数 大人86名 子ども66名 合計152名（全3回3会場合計）

希望する人が子どもを持つことのできる環境づくりのための、高齢者を対象としたセミナー。

対象者は祖父母と孫で、高齢者に知って欲しい知識を、児童も飽きずに参加できるように〇×クイズとし、参加型にした。セミナー後半にはkajiiのワークショップを取り入れ、年齢性別に関わらず祖父母と「一緒に」楽しみ、その後のボランティアにも生かせるように工夫した。最後に会場の参加者が一体になれる演奏があったことで、より一層満足感につながった。終了後にはリーフレットを配り、帰宅してからも祖父母との交流ができるように配慮した。

全3回を終えてのアンケート結果は、満足と回答くださった方が多かった。しかし、チラシ作成や広報については課題が残る。また、各会場の特徴や季節により集客に差が出たため、会場の特徴をとらえた企画が必要であると感じた。